

FUEIKI ^{vol. 70}



マツウラ理事長がゆく！ 子ども×アート

このコーナーでは美術教育の最前線で活躍するキーパーソンに、最新動向と今後の展開をインタビューしています。今回は、芸術士®派遣事業を全国で初めて行政と一緒に取り組み、注目されている特定非営利活動法人アーキペラゴ三井文博代表理事に、10年目を迎えた活動について伺ってきました。

ゲスト：特定非営利活動法人アーキペラゴ 三井文博代表理事
聞き手：公益財団法人福武教育文化振興財団 松浦俊明理事長



芸術士®は協働のブランド

松浦 芸術士®という®(アールマーク)には、こだわりが感じられますが、どのような経緯手で決まっていたのか聞かせてください。

三井 始まって数年すると、芸術士®活動に興味を持っていただいた行政や施設から、うちでもやりたい！という相談が増えてきました。2009年から活動を始め、2013年に高松市から商標登録しよう、とご提案いただき、アーキペラゴの団体名で申請しました。その後、島根県津和野町の教育長から、地域おこし協力隊の事業で、芸術士®活動をしたいという相談があり、ワークショップや研修を行って、始まる際に活動名を芸術士®とする旨で、公式に津和野町から高松市窓口に出していたいただき、了解を得て、事業名を使ってもらうことになりました。

松浦 芸術士®は、事業名ということですか。

三井 10年間の試行錯誤と、参加してくれている芸術士®、更には、派遣先の保育園や幼稚園の現場でのOJT(On-the-job training)で、ブラッシュアップしている活動です。芸術士®は、一人のアーティストの仕事ではなく、参加してくれている全ての関係者との協働のブランドだと思っています。

また、高松市も創造都市推進の一丁目一番地の活動として、芸術士®という呼び名で全国にPRしています。





松浦 芸術士®派遣事業の内容を教えてください。

三井 絵画・彫刻・パフォーマンス・デザイン・工芸など、様々な分野で表現活動するアーティストを芸術士®として週に1回程度、1年間を通して保育園や幼稚園に派遣します。

現在、芸術士®23人が高松市内の公私立43の保育所・こども園・幼稚園を分担し、それぞれ概ね1〜4ヶ所の施設に出向き日々の保育の中で保育教育士・幼稚園教諭と連携しながら、子どもたちと造形活動や身体表現など様々な表現活動をしています

松浦 今日は、実際に活動を見せていただきました。子どもたちは、何がはじまるのかワクワクしていました。

行政とタッグを組む

松浦 芸術士®活動の始まりを教えてください。

三井 2009年に国の雇用補助金があつて、いち早くキャッチしたメンバーが、その雇用補助金を使って若いアーティストの新しい仕事を保育園や幼稚園の現場に創りましょうという企画書を作成してきました。それが、芸術士®の仕事だったんです。

企画書をいきなり、当時の副市長に持って行ってしまったのですが、「企画書は幼稚園と書いてるけど保育園なら



できるわね。検討しましょう」と言ってくれました。そのまま1、2か月が過ぎた頃、行政とのキャッチボールが始まりました。企画書を持ち込んだのは3月から4月ぐらい。ゴーサインが出てやろうという話が出たのは9月。事業は11月から始まりました。当時の高松市は、今では当たり前になっていることも園化を進めていた時期だったのでタイミングがよかったですね。3年目で国の雇用補助金が終了した後、市は一般財源化してくれました。

松浦 北イタリアのエミリア・ロマーナ州にあるレッジョという地域で始まった、主に未就学児を対象とした特色ある「レッジョ・エミリア幼児教育」をモデルにされていると伺いました。

三井 アートの力は信じていました。が、レッジョ・エミリアについては、当時は聞きかじった程度の知識で、誰もレッジョに行ったことがなければ、幼児教育の経験もありませんでした。同級生に幼稚園の園長がいて、彼にレッジョの活動を教えてもらい、やっぱりいいじゃないかと。彼からも是非、進めて欲しい！と、そんなところから始まりました。

松浦 手探りで始めた感じですか。

三井 この企画を受け入れてくれた保育園の園長先生の懐の深さのおかげです。

アーティストは8名集まりました。最初の3か月間は自分

たちの持ち技は出さずに、子どもたちの遊び相手になって、彼らが何を求めているのか「子どもたちの言葉に耳を傾けよう」と、毎日通っていました。それをやったのが良かったなど、今思えば。

松浦 芸術士の役割は何ですか。

三井 子どもたちと社会を繋ぐ架け橋です。子どもたちの無限の可能性を信じ、子どもたちの感性と創造力を最大限に引き出す手助けをします。それは、あれこれと指示することではなく、子どもたちを見守り、励まし、豊かな感性を育てていくことです。また、芸術士の目を通して見、気付いたことを保育士、保護者、さらに社会に伝えます。

松浦 印象深いエピソードを教えてください。

三井 例えば、幼稚園に行ってみて、みんなが同じ描き方をしていたことにびっくりした芸術士は、生のイカを4はいい買って持って行きました。イカを目の前に並べられた子どもたちはびっくり仰天。何だろうという好奇心から始まって、ついで遊んで墨を出してと、遊びの時間になり、そこで最後に、子どもたちに自分のイカの絵を描かせました。すると、ありとあらゆるイカが、海の世界を埋めていきました。その過程をみていた園長先生は、すごく感動して、それからは彼女にお任せ。そんなことがエピソードとして私たちの経験値の中の宝物になっています。



くんです。

評価は満足度で

松浦 年間の活動実績を教えてください。

三井 2018年度の高松市の委託費は約3800万円、43園に行きました。1園に年間48回、幼稚園だと41回程度になります。それ以外に自前で呼んでもらっているところが18園。岡山市内の白鳩保育園にも派遣しています。

松浦 補助金事業だと成果、結果を求められますよね。

三井 高松市を創造都市に作っていくという創造都市推進協議会では、KPI (Key Performance Indicator) の指標で各事業の評価をしています。今のところ芸術士活動の指標は、派遣先の保育園の満足値が何パーセントなのかという、非常に抽象的な判断しかできていないですが、おかげさまで90%の数字が続いています。要望してくる園も多く、70園ぐらいの園が要望していて43園ということ、評価をいただいています。

松浦 幼少期に関わった最初の子は15歳ぐらいになっていますよね。その後の関わりは何かありますか？

三井 小学校の時の接点を作っておきたかったので、前

からやりたかった児童クラブを始めました。

松浦 幼稚園とか保育園で体験した子どもたちも来ますか。

三井 そういう子もいますし、体験していない子もいます。

松浦 何か違いはありますか。

三井 造形とか芸術表現に対して、免疫があると思えます。その知識とか体験があるから、どのようなことに対しても恐れなく飛び込んで行っています。経験がないまま行くと、飛び込みにくいというか、きっかけがもちづらいですね。

大人社会を変えたい・・・

松浦 10年経って思うことは何ですか。

三井 最初は個性豊かなアーティストばかりのメンバーでチームとして、編成というのが難しかったのですが、シンプルに子どもたちに向き合って、子どもたちのために何ができるのかと一人ひとりが考えると、自ずといい集団に変わってきました。最近では離職する人も少なく長くずっとしたい仕事だと言ってくれています。すてきな人材が集まってくれて、チームとしても成長しているなど思い



玉野市で取り組んでいる子どもの芸術活動

「玉野こども芸術アプローチ」



玉野みなと芸術フェスタ

<https://www.facebook.com/tamanominartfest/>

芸術士の一人山田茂さんをメンバーに持つ玉野みなと芸術フェスタ実行委員会(代表 齊藤章夫)は、2018年度から試験的に芸術士活動に準じた活動に取り組んでいます。今年度は当財団の教育文化活動助成も活用して、3園に各2回の活動を行いながら実績を重ねています。子どもたちの集中力や目の輝きは、次の展開に大きな希望を感じます。



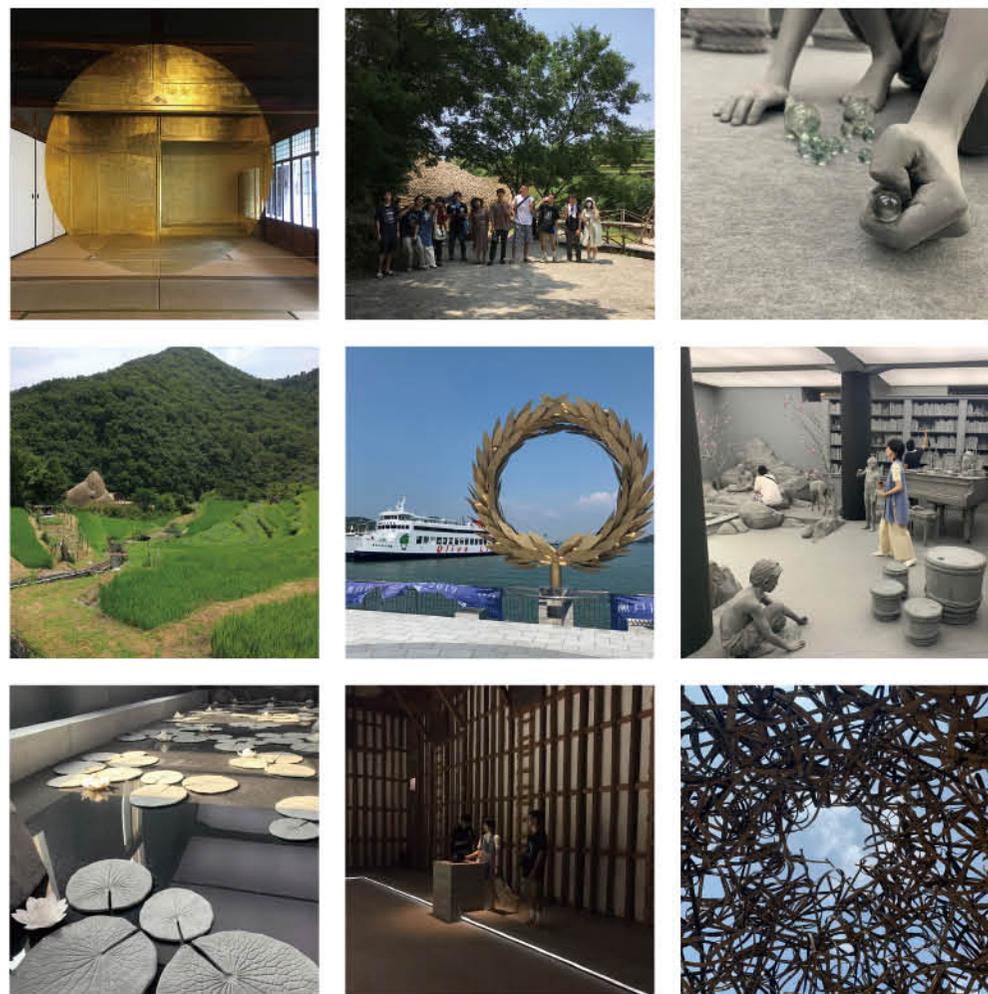
三井文博 (みい・ふみひろ) 特定非営利活動法人アーキペラゴ 代表理事

1954年香川県生まれ。広告会社ADK勤務後、2009年よりNPO法人アーキペラゴ代表理事。同法人では、2009年から高松市子ども園運営課と全国初の芸術士*派遣事業。海岸河川漂着ゴミ調査清掃活動。豊島ゼミの企画運営。2012年から香川県産品振興のさぬきマルシェの運営。2018年から放課後児童クラブの運営等。

特定非営利活動法人アーキペラゴ
<http://www.archipelago.or.jp/>

ます。
あとは、高松琴平電鉄が100周年の時には、駅を美術館に見立てて、近くの保育園の子たちの作品や物語を飾ろうという企画をしました。今までどちらかと言えば閉鎖的な環境の保育所や幼稚園というのが社会や地域とつながったり、瀬戸内国際芸術が始まったことで、アートに対して半信半疑だった方も確信をもってアートはいいと言ってくれるようになったり。それはけっこう流れを変えてくれました。
10年目のテーマは、大人社会をどう変えるかです。子どもは素直に楽しいことはすぐに自分の事として受け入れて反応してくれます。それに対して大人側の既成概念や価値観を少し変えていってもらうには、どうしたらいいのかなど、今後の最大のテーマです。

【小豆島編】



倉敷芸術科学大学 16名

#古民家などを上手く作品に活かして地域を活性化 #島の住民のお茶やところてんのお接待 #自然など小豆島に繋がる作品たち #猛暑だったので徒歩で回るのが大変 #自分の制作にも何か刺激になる #地域の文化に再度触れさせる #鑑賞者との相互作用を意識的に多く利用している作品が多い #芸術がフック #作品を媒介としてコミュニケーションが生まれる #世界中から訪れる人々とそこに暮らす人々との出会いがもたらす化学反応 #日本の古き良き文化が残っている

@setogeitankentai



大学生の目線で

瀬戸内国際芸術祭2019のようみをお届けします!

【大島編】



ノートルダム清心女子大学 9名

#宝伝港でフェリー待ち #歩いていろんなアートが見れるのでオススメ #可愛い島ばあちゃんとトークを楽しみながら犬島みかんのマーメイドアイス #島の景色の中に現代アートがある感じがとても不思議 #島の風景や雰囲気も作品と一緒に楽しみたい #出会うものすべてが新鮮 #島の中に現れるアートも見つけていくことが面白い #島全体がアートのように感じる #犬島の最大の良さは島の大きさ #作品ごとにスタンプをかえてほしい #芸術祭の主役は島



飛島ガーディアンプロジェクト



高田友美さん(左)、日置 幸さん(代表=右)

設立 2018年
 主な活動場所 飛島(笠岡市)
<https://www.facebook.com/hishimaguardianproject/>

衰退の一途をたどる飛島の伝統文化を習い、文化的価値の存続と継承に取り組みます。今年度は、飛島の祭りや唄、盆踊りを冊子にまとめることで、飛島の活動に異世代を巻き込む「まちおこし」を行います。メンバーは月に1度は島に渡り、清掃活動の手伝い、伝統文化を教わる会の開催、行事へ参加を通じて、島民とのコミュニケーションを深めています。

応援してます!



備中志事人



設立 2017年
 主な活動場所 井原市
<https://www.facebook.com/備中志事人-458738637812439/>

自分の中にある“こうあってほしい”を実現するための「マイプロジェクトを創る『合宿』と「マイプロジェクトを伝え合う『学会』」の2つを重視して行っています。若者と大人と一緒に創ったり、想いや実践を発表し合ったりする活動を通して、それぞれの目標【=志】の実現に向けた自分なりの一歩【=志事】を踏み出すための“追い風”になりたいと思っています。



にのみ木のおもちやの会



(右から) 藤本忠男さん(代表)、ラミン ジャミシドプールさん、稲岡淑子さん

木のおもちやを切り口に「木育」を幅広い世代に知ってもらうため、木のおもちやを使った「出前ワークショップ」を年間通して行っています。今年度は教育、観光、福祉、医療、子育てなどの各分野の活動に効果的な活動支援ができるよう、「木育」プログラムの充実を図っていきます。

設立 2018年
 主な活動場所 岡山県内
<https://www.facebook.com/niimikinoomochanokai/>

大学が無い真庭を、大学生が活躍する真庭へ。真庭を拠点としてワカモノが地方をフィールドに活動することで、地域に活力を与えることを目標に、今年度は、ゆーまにわキャンパスに子どもたちが心地よいと感じる「居場所」となる「たまり場」をつくります。



(右から) 大倉千穂さん、藤本一志さん、安藤有輝さん、橋本隆広さん(代表)

設立 2017年
 主な活動場所 真庭市
<https://www.facebook.com/youmaniwa/>

地域学生団体ゆーまにわ



FACE

SOSU(ソスウ) 代表 二宮麻衣子さん
副代表 浅野奈緒美さん

災害がつかないだネットワーク

2018年6月にSOSU初回イベントを開催した翌月に西日本豪雨発生。友人や知り合いが被災する中、目の前のニーズに伝えるため、情報発信やホッとできる親子の居場所作りに取り組みなど被災地支援活動に尽力。SOSUを立ち上げた代表の二宮麻衣子さん、副代表の浅野奈緒美さんに活動について伺ってきました。

「いてもたってもいらなかった」と二宮さんと浅野さん。二宮さんは、すぐさま総社市社会福祉協議会社協の災害ボランティアセンターに登録。情報の拡散や避難所のニーズなどの聞き取りをしていく中、託児所がないという課題に直面し、なんとかしなくてはと思った。一方、浅野さんも、ボランティアで現場に入り、子育て世代の行き場所がないという

状況を目の当たりにし、胸がしめつけられる思いだった。ふたりの思いは一致。SOSU本来の、大人も子どもも楽しめるイベントづくりの活動は、とりあえず休止し、被災地の子育て支援に取り組みことにした。8月には少しでも笑顔になってもらおうと、総社、真備で被災した子どもたちとそのご家族向けにキャンプなどを企画し招待した。8月末には、「多様な人々が行き交う場所にしたいたい」というSOSUの主旨に賛同してくれたピルのオーナーが、無償で貸してくれることになり拠点も決まった。

新拠点での企画第一弾は「宮大工さんとお箸を作ろう！」ワークショップ。それから新学期に向けて「ファミリーヘアカット」や防災、リフォームのことなどを勉強する「みんなで学ぼう住まいのこれから勉強会」を開催。みんなで映画を観たり、親子神楽の公演を開催したり、食育イベントで豆まきをしたり、いろいろな方の協力を支援の賜物だと1年を振り返った。イベントのときには「ごはん」を提供することにした。浅野さんは、食材やメニューにこだわった。「同じ釜の飯を食う」ではないですが、大切にしていた時間の一つです。

この春からは、SOSU本来の活動に戻りつつある。この1年で、合計28回の支援イベントを実施。参加者は約1150名。7月に開催した「SOSU音楽会 with ママトムジカ」は、この日ために結成されたバンド。昨年の豪雨災害で被災され、SOSUイベントによく参加してくれたママたちがメインになって企画した。二宮さんは、支援される側という枠がなくなっていく。そういう気持ちになれる場としては機能できたのかなと話し、子育ての支援という本来の趣旨と西日本豪雨被災地復興支援がリンクしてきたことを実感している。

家庭でも学校でもない場。いろいろな大人や異年齢の子どもが集まる場。親にとっても子どもにとっても第3の居場所として、ありのままにいられる場所として、SOSUの活動は続く。

浅野奈緒美(あさの・なおみ)/SOSU 副代表 (写真左)

1976年広島市生まれ、総社市在住。小学生、幼稚園児、3歳の3娘の母。子育て真っ最中。無理なく身の丈にあった活動を楽しくやることをモットーに日々奮闘中。

SOSU <https://sosu.site/>

二宮麻衣子(にのみや・まいこ)/SOSU代表 (写真右)・

総社リトミック & 子ども英語 FUN!MUSIC!! 代表

1980年総社市生まれ。小学生と幼稚園児、2娘の母。子育て真っ最中。小学校教諭を経てリトミック指導者資格を取得。自分の知識と経験を総動員し、『今、この瞬間が楽しい!』時間と空間と体験の創造を追求中。

教育文化活動助成の公募の時期が近づいてきました。申請の準備は始めていますか? 2020年度の教育文化活動助成に関わるスケジュールをお知らせいたします。「申請を考えている」また「迷っている」皆さまには相談会を実施いたします。お気軽にお問合せください。



教えて! 財団

2019年度の予定

	日時	内容
andF フェス (成果報告会&交流会)	2019年11月9日(土) 14:30~15:30 成果報告会 15:40~17:00 交流会 会場:岡山プラザホテル 参加無料 ※申し込み無しで、 どなたでも参加できます。	2018年度の助成金を活用した団体からandFフェス(成果報告&交流会)を開催します。岡山県内で活躍している約200団体(約400名)が参加。岡山県内の教育文化活動を一日で聞くことができる貴重な機会です。情報交換やネットワークもひろがります。
andF【個別】相談会	2019年11月1日~2020年1月20日 10:00~11:00 13:00~16:00 会場:財団事務所 無料	1団体1時間程度。 電話又はメールなどで 事前に日時をご相談ください。
andF【出前】相談会	2019年11月1日~11月28日 無料 ※参加者が5名以上の場合、 出張いたします。	申請のポイントなどをレクチャーします。 電話又はメールなどでご相談ください。
andF 教室vol.8	2019年11月30日(土) 13:30~16:00 会場:岡山県立図書館2F 参加無料・定員30名	助成金はどういうものなのかを 知るところから学んでいきます。 (初級編)
募集期間	2019年12月1日~2020年1月31日	10月には公式ホームページから 申請書がダウンロードできる予定です。 メール申請ができるようになりました。

andF ... Fは「福武教育文化振興財団のこと」、そしてandの前にくるのは、「地域で活動するみなさま」をイメージしています。地域の一人ひとりに寄り添う財団でありたいという願いを込めています。

竹の利用で目指す循環型社会

弊社は1989年6月、家具部品加工を行う株式会社テオリ(ドイツ語で基本・原点・初心の意味、英語でセオリ)を設立し、10年後に自社で製作した商品を全国販売する事を目標に掲げ、取組みを始めました。

倉敷市真備町は竹の産地で約100haの孟宗竹林があります。美味しい竹を作る為には毎年間伐が必要ですが、近年間伐された孟宗竹は用途が少なくなり、焼却や産廃処分されているのが現状です。

私はそこに着眼し、孟宗竹の集材材を作って家具を創る事に取り組み商品化して参りました。竹は生長が早く3年で堅くて丈夫な疎性が出来上がり、狂いの少なく耐久性・耐摩耗性に優れており、植林しなくても毎年生えてくるまさに、持続可能な商品開発ができます。デザインは岡山県立大学三原准教授の協力を得てシンプルモダンデザインで国内外に出荷しております。

昨年7月7日、西日本豪雨で工場も泥水(2.2m)に沈みました。1日過ぎてやっと工場にたどり着くと、工場の中はグツグツグツグツで声も出ない状態でした。皆さんの温かい協力を得て、ガレキも撤去し、機械もすべて入れ替え・修理して9月には再可動させることが出来ました。ありがとうございました。

今後は、『竹素材を活かし』1本の竹を切ったら家具から塗料・竹肥料まで余すことなくすべて使う、そして土に還る『竹循環型社会』を目指し、竹の買取り制度をさらに充実させて地域貢献していきたいと思っております。



中山 正明

NAKAYAMA masaaki

株式会社 テオリ 代表取締役

1954年岡山県高梁市生まれ。1988年家具メーカー退職後、有限会社テオリ設立代表取締役に就任。1998年株式会社テオリに組織変更代表取締役に就任。第77回山陽新聞賞(産業功労)受賞。倉敷法人会真備支部長、真備船種商工会副会長、吉備信用金庫理事、岡山県立倉敷まきび支援学校地域連携委員、倉敷まきび公園(倉敷市真備町箭田)管理組合長、倉敷市復興委員会(平成30年7月豪雨)真備地区復興計画策定委員。

TEORI <http://www.teori.co.jp/>

NUTS (ナッツ)



Editor's Column

■昨年まで4種類あった賞を改め、本年より「福武教育文化賞」として一本化しました。従来のように、教育と文化で区分せず、教育と文化の両面から地域振興を図る担い手を顕彰し、受賞後3カ年は助成するという表彰制度です。■受賞者は次号で詳しくご紹介しますが、表彰式は11月9日(土)13時半から岡山プラザホテルで行います。当日は、助成団体の成果報告会、交流会も合同で実施し、400名を超える大規模なイベントとなります。一般参加も自由ですので、どうぞお越しください。これからの魅力ある地域づくりを担う人々と共有、連携できる場にしたと考えております。■老後2000万円不足等年金問題、異常気象、および運転、米中貿易問題、日韓関係等々、連日突破口の見えない憂鬱なニュースが連日報道されています。令和改元時に抑えていたニュースが噴出したような気もします。変化の時代に対応すべきか、処方箋は簡単ではありませんが、このような雰囲気には悲観していても何も始まりません。財団では、助成事業を通じた地域の活動支援が、必ず、地域課題の解決につながり、新しい価値を生み出していくと信じています。2020年度の公募助成も12月から受け付けます。(O)



公益財団法人 福武教育文化振興財団

人づくり、地域づくりを応援します

〒700-0806 岡山市北区広瀬町1番5号
株式会社ベネッセコーポレーション広瀬町社屋
TEL: 086-221-5254 FAX: 086-232-3190
URL: <http://www.fukutake.or.jp/ec/>
E-MAIL: eczaidan@fukutake.or.jp



機関誌 不易 FUEKI vol.70 2019.9.25

編集・発行:

公益財団法人福武教育文化振興財団

制作: 株式会社吉備人

デザイン・イラスト: タケシマレイコ

印刷: 株式会社三門印刷所